

京都府立図書館における がんギフトの設置と健康講座の開始について

山下 ユミ、神山 貴子、奥野 吉宏
京都府立図書館

背景と目的

公共図書館では課題解決型サービスが全国的に拡充してきたが、京都府立図書館での医学・健康分野の取組は限定的である。京都府立図書館は 2018 年に『がん情報ギフト』を導入し、2024 年から市民向け健康講座を開始した。本報告では導入プロセスと利用実態を報告する。

方法

2018 年、がんの冊子 47 種を情報提供コーナーへ配架した。2024 年に一部冊子を医学分野の開架書架へ移設し、可視性を高めた。また、2024 年に全 4 回（各 90 分、定員 20 名）の健康講座を開催し、がん経験者、看護師、薬剤師、がん相談員の計 4 名が登壇した。終了後にアンケートを実施した。

結果

参加者 75 名中 69 名からアンケート回答を得た（回収率 92%）。満足度項目には 60 名が回答し、そのうち「満足」「やや満足」は 58 名（97%）、無記入 9 名であった。健康講座のために初めて来館した人は 9 名、参加者の年代は 50 代以上が 73 %だった。講座についての情報は館内のチラシ・ポスターから得た人が 6 割を占めた。

テーマ(実施日)	日付	参加者数
第 1 回「みんなのがん教室」	2024/3/10	20
第 2 回「看護師と一緒に考える生き方と死に方」	2024/4/13	28
第 3 回「薬剤師に聞きたいくすりの話」	2024/6/16	17
第 4 回「がん相談支援センターってどんなところ？」	2024/10/6	10

考察

がん情報ギフトと連動した健康講座は、限られた予算下でも市民の情報アクセスを促進し、図書館利用の動機づけとなった。一方で、参加者の多くが館内のポスターを見て参加しており、広報の強化が課題である。2025 年度はテーマをがんに特化し、外部機関と連携した講座を継続予定である。

倫理的配慮

本調査は匿名・任意のサービス評価で、個人情報を含まないため倫理審査は不要と判断した。